

世界が終わる少しだけ前のお話。

朽ちたTVモニターが転がっている。

天高く伸びた葛がテレビモニターをも巻き込み塔をなそうとしている。

バベル、というわけではない。

ある時刻がやってくると闇が訪れるのは別に劇場に限ったことではない。

①

闇。

ギターの音が聴こえる。

これから物語に登場する男たちが、それぞれ居心地の良い場所に鎮座します。

命が無いのか、彫刻のように動かない。

モニターが一箇所だけ光る。

ノイズ。

月明かり。

少年が月を眺めている。

すぐ近くにゴドーが倒れていたことに気がつく。

少年　　おわ！

少年は怖々半分好奇心半分といった様子で突然現れたゴドーをいじる。

ゴドー …うう。

少年 生きてる！ 生きてる、死んでない、生きてる！

ゴドーがゆっくり起き上がる。

ゴドー …ここは。

少年と目が合う。

見つめ合う二人。

急に我に返るゴドー。

ゴドー ここは！

辺りを見回し、猿のように走り回る。

ゴドー また失敗か…クソっ！

激しく怒ったかと思えば泣き始めるゴドー。

少年 ん？ ん？ 泣いてんの？ 感情の忙しい人だなあ。ちょっと、大丈夫？

ゴドー …。

少年 何があったか知らないけどさ、きっと大丈夫だよ、なんとかなるよ、まるで根拠ないけど。

ゴドー …。

少年 大の大人が泣くなんてさ、よほどのことだと思っけどさ。泣いちゃダメだよ。

ゴドー …。

少年 泣くなつてば。

ゴドー …。

少年 …男が泣いて良い時は三つしかないんだぜ。

ゴドー (少しだけ反応)

少年 知りたい？ 今反応したよね、ピクって。興味あるってことだよね？

ゴドー …。

少年 よーし、じゃあ教えてやるよ。男が泣いて良い時。一つ、買ったばかりのスニー

カーで犬のウンコを踏んだとき(自由)。二つ、好きだったあの子が一個上の先輩と

付き合ってる事を知ったとき(自由)。

ゴドー (手招きで少年を呼ぶ)

少年 なに？ オチの手前なんだけど。

ゴドー (耳打ちする)

少年 ん？ なになに？ イマイチ？ ってなんだよそれ！ おもしろだよ！ 俺はおもしろだよ！ 休み時間とか後ろの方の席では人気ものなんだぞ。

ゴドー (手招きして耳打ち)

少年 ん？ 私の？ 視界から？ 消えてなくなっていただけないでしょうか？ 永久に？ ネバー。酷いなアンタ！ 傷つきやすいお年頃なんだぞ！ ガラスの世代だぞ、プレパレートジェネレーションなんだぞ。パキつつつてパキつつつて。

ゴドー (手招きして耳打ち、なかなか言わない)

少年 ……ファック。言うに事欠いてシンプルにそれかい！ いいぞ、来いよ、かかってこいよ、拳と拳で語りあおうぜ。デイベートだよ、拳のデイベート。でもどちらが正しいかを競いたいわけじゃないんだぜ。結論は急がないのさ。なぜなら拳のデイベートは結論よりも行為そのものに(等々、いちいちうるさい)

ゴドー ちよつと静かにしていただけませんか！

少年 あ。

ゴドー わかる？ 俺ね、おじさんね、凹んでんの！ おじさん？ お兄さん？ 君にはどう見えてるのかしんないけど！

少年 じゃあ、お兄さんで。

ゴドー どっちでもいい！ マジでどっちでもいいそんなこと！ いい？ 見てたよね？

少年 俺、泣いてたよね？ こういうときさ、見てる側の君には色々と選択肢があるよね？

少年 はい。

ゴドー その数ある選択肢の中で、君、一番最低なやつ選んだよね？

少年 自分ではベストかと…

ゴドー 全然ダメ！ ナンセンス！ 酷い！ 零点！ 君、あれでしょ、友達あんまないいでしょ？

少年 そんなことは…

ゴドー 隠してもダメ。わかん。おじさんわかん。おじさん君みたいな子を何万何億と見てきたんだから。一息でばくって、ためてる息を吐ききるまで喋り続ける奴ってほしいそうだから。対人コミュニケーション下手だから。人と喋り慣れてないもんだから、いざ話し相手が見つかるばくって喋っちゃうの、こころごとばかりに。

少年 (俯く)

ゴドー でもね！ でもね！ おじさん別に君を傷つけたくて言ってるわけじゃないか

少年 ら！ 見て！ おじさんを見て！ 一緒でしょ？ さっきの君と一緒でしょ？

少年 あ。

ゴドー そう。そうなの、おじさんも友達あんまりいないタイプなの。ね？ 君とおんなじ。

少年 ホントだ。

ゴドー だからね、つまりは、つまりはね。

少年 うん。

ゴドー つまりはなくにを言いたかったんだったかな。

少年 あ、そういうことよくある！

ゴドー そう、それは良かった。

少年 (なんだか嬉しそうにゴドーの周りをくるくる回る)

ゴドー …なに？

少年 …話そうよ！

ゴドー え？

少年 友達いないもん同士さ。

ゴドー あく。

少年 ね。

ゴドー …俺は、別に、友達いないわけじゃ。

少年 いたんだ、友達。

ゴドー …ああ、まあね。

少年 …死んじゃったの？

ゴドー (見回して) どうやら、そんな感じ。

少年 だから泣いてたんだね。

ゴドー …。

少年 悪いことしちゃったね。

ゴドー ？

少年 泣いてても良かったんだ。

ゴドー ん？

少年 三つ目。

ゴドー 三つ目？

少年 大切な人を失ったとき。

ゴドー え？

少年 男が泣いても良いとき。

ゴドー …ああ。

少年 …ねえ。

ゴドー ん？

少年 どんな人達だったの？

ゴドー 何が？

少年 おじさんの友達。

ゴドー ああ。

少年 ねえ、聞かせてよ、おじさんの友達の話。

ゴドー あゝ。

少年 良い人達だったんでしょ？

ゴドー …。

少年 ？

ゴドー 逆だな。

少年 逆？

ゴドー サイテーな奴らだったよ。

少年 え？

ゴドー 本当に、クズで、ゴミ以下のカスの。そりやあもう、なんというかこう、ゲロをタンで練りこんで肥溜めに浸したような、無価値で、もう細胞の一つ一つが全部馬鹿！（最低の罵倒をどうぞ）

少年 そ、そうなんだ。

ゴドー 聞く？ サイテーな奴らの話し。

少年 聞きたい！ サイテーな奴らのサイテーな話し。

ゴドー よし。

②

ヴォルフがギターを奏でる。

鎖で繋がれている男（神戸）が騒いでいる。

神戸 おらあ！ 誰か来いや！ 外せや！ 切れや、この鎖！ なんやねん、これ！

こんなんされるなんて聞いてへんぞ！ 侵害や！ 人権の侵害や！ ええかげんせよボケ！ なんやアレか？ 俺みたいなものには人権なんてないっちゆうことか？ じゃかしいわボケ！ そんなんどうだっていいからとにかく外せや！

騒ぎ続けている神戸の周囲をピエロがうろちよろしてる。

ピエロ あー忙し、あー忙し。

神戸 （その存在を意識しながらも）こら！ 誰か！ 聞いとんのかこら！ 外せ言うとるやろが！

ピエロ （モニターに繋がってるキーボードを叩きながら）コレがアレだからソレをアレ

して…ん？ ドレをアレしたらコレがソレになるんだっけ？ …まあいいや。あー忙し、あー忙し。

神戸 おい、おい。

ピエロ あつちにあつたのこつちにやっつて、そつちにあるのを…どつちにやるんだっけ？
まあいいや、あー忙し、あー忙し。

神戸 おいこら、待て。

神戸の存在に全く気づかない。

神戸 …まさか、こんだけ呼びかけても答えないってことは、俺のことが見えてな…

ピエロ ちよつとごめんね〜

神戸 見えとるやないかい、こら、その白いの。

ピエロが止まる。

神戸 そうや、お前や。

ピエロ (後ろを振り返る)

神戸 何をふりかえつとんねん。

ピエロ (ハツとする)

神戸 何をハツとしとんねん。そうや、お前や、お前しかおらんやろ。

ピエロ (後ろを振り返る)

神戸 せやから何をふりかえつとんねんつて。

ピエロ あ、ひよつとして僕ですか？

神戸 そうや。ちよお前に聞きたいことがあんねん。

ピエロ はあはあ。

神戸 おお、あんな、俺はなんだつてこんなとこに繋がれてるんやろか？

ピエロ あ、ちよつとごめんなさいね。

ソニーがやってくる。

ソニー ガー忙し、ガー忙し。

ピエロがやった作業を丁寧に逆にやる。

ソニー ガー忙し、ガー忙し。

ピエロ ちよつとちよつと。

ソニー ガー忙し。ん？
ピエロ ソニー、また間違ってるよ。
ソニー え？
ピエロ アレがあっちでコレがこっちだよ。
ソニー え？ でも、アレがあっちでコレがこっちだろ？
ピエロ うん。
ソニー うん。
ピエロ 合ってるねえ。
ソニー そうだろ？
ピエロ でもいっこうにはかどらない、なんでだろ？
ソニー なんでだろ？
ピエロ うーん。
ソニー うーん。
ピエロ あ。
ソニー ん？
ピエロ ソニー、またアレかも。右手はどっち？
ソニー こっち（左手を上げる）。
ピエロ やっぱり。ソニー、右手はこっちだよ。
ソニー あ、またやっちゃった？
ピエロ そうみたい。
ソニー えっと、右手がこっちで左手がこっち。
ピエロ そうそう。上が？
ソニー えーと、こっちで。
ピエロ 下が？
ソニー えーと、こっち。
ピエロ 合ってる。
ソニー なるほど、逆になっちゃってたんだね。
ピエロ そうみたい。
ソニー だからかどらなかつたんだ。
ピエロ うん。よし、じゃあ最初からやろう。
ソニー そうだね。

二人が作業に戻る。

神戸 ちよおちよおちよお！ 待て！ なんだ、お前ら、ほのぼのか！
ピエロ ほの？

ソニー ぼの？

神戸 ええねん、そこ気にせんでええねん。

ピエロ 気にせんで？

ソニー ええねん？

神戸 気にせんでええねんも気にせんでええねん。

二人が顔を見合わせている。

神戸 なあ、見てこれ。繋がれとんねん、俺。

ピエロ うん。

ソニー 繋がれてる。

神戸 なんでこんななされとんねん。てか、ここ何処やねん、そんなもってお前らなに
もんやねん。

ソニー あ、頭が。

神戸 あ？

ピエロ ごめんね、いつぺんに質問しないでもらえる？ ソニーの処理能力超えちゃって
るから。

神戸 キヤパ浅っ！ どんだけ浅いキヤパシティーしとんねん。

ソニー よくも…ねえねえアルビー、どうする？

ピエロ ー、みんなないしなー、どうしよっかなー。

ソニー 食う？

ピエロ ううん、食わない。よし、俺たちで決めちやおっか。

ソニー そうする？

ピエロ そうしよう。

神戸 あん？ なに？ どういうこと？

突然凶器を出す二人。

神戸 え？

ピエロ 死ぬ？

神戸 は？

ピエロ (発砲) 死ぬ？ 生きる？ どっち？

神戸 怖っ。お前、何言うとんねん。

ソニー 死ぬ？ 死ぬ？ どっち？ 二択だよ。

神戸 一択や。あー、もうようわからん！ わからんけど生きる！ 生きる！
ピエロ なるほど。

ソニー ちえつ。

武器をしまい、神戸の鎖を外す。

神戸 ……おお、ありがとう。

ピエロ どういたしまして。

神戸 ……ここは、どこやねん。

ピエロ それはおいおい。

アルビーが作業に戻る。

ソニー ……。

神戸 あ？ なんや？

ソニー 顔が、嫌い。

神戸 あ？

ソニーも作業に戻る。

安藤くんが入ってくる。

安藤 殺した？

ソニー あ、安藤くん。

ピエロ ううん、生きるって。

安藤 そうなんだく、ふーん、へー。

ジロジロと神戸を見る。若干近い。

安藤 あったかーい。

神戸 距離近いでっせ。

安藤 よろしくね。みんなからは安藤くんって呼ばれています。

神戸 あ、どうも。

握手がソフト。

安藤 お名前は？

神戸 あ、えーと…

ピエロ ちょっと待って！ 名前言うのちょっと待って！
ソニー 待って！ 俺も俺も！

二人がモニターで何かを調べる。

神戸 何を見てんの？

安藤 多分君のデータだよ。

神戸 俺の？

安藤 うん。

ソニー これだ、これにしよう。これなんて読むの？

ピエロ 神戸だね。

ソニー 神戸。

神戸 あく、それ名前ちやうで。

ソニー 決まり、今日からお前は神戸。

神戸 せやから…ま、ええか。どうせ一度死んだ命やしな。

安藤 よろしく、神戸君。

神戸 よろしく。(周囲を見回して)…で？ ここはどっちなん？

ピエロ どっちって？

安藤 見ての通り僕はどっちでもない存在だけど。

ピエロ ああ、そういう話し？

ソニー ん、じゃあどっちでもない。

ピエロ そうだね。

神戸 ん、ん、わけわからん。そうじゃなくて、ここは天国と地獄どっちなん？

ま

まあ、俺が天国に来れるなんてハナから思ってたへんけど。

一瞬の沈黙の後に爆笑。それぞれ神戸のモノマネ。

神戸 なんやねん。

安藤 あく、そっかそっか、そういうことか。

ピエロ ここはね、天国でも地獄でもないよ。

神戸 え？

ソニー ある意味地獄ある意味地獄ある意味地獄。

ピエロ そうだねえ。

ソニー ハリーの馬鹿も初めて来た時は同じこと言ってた。

ピエロ そういえばそうだ。

安藤 でもさでもさ、僕がいるから天国とも言えるかもしれないよ、ほら、天使って両

性具有だから、僕と同じで。

ソニー　へー、安藤くん、天使と一緒になの？　いいなく

安藤　いいでしょ。

神戸　え、え、え、ちよっと待って。ここは天国でも地獄でもないの？

ピエロ　そうだねえ。

神戸　でも、俺はあの時に死んで…こう、布を被せられた所までは覚えとんねん。俺はあの時に死刑になって…

三人がかりでめっちゃやくすぐる。

神戸　やめ、ちよ、やめて、やめてあげて！

ピエロ　どう？

安藤　生きてる実感わいた？

ソニー　ガーわいた？　ガー死ぬ！　ガー死ぬ。

神戸　…え？　俺、生きとるん？

ソニー　生きとるん。

神戸　死んでへんの？

ソニー　死んでへんの。死ねばいいのに。食うし。

神戸　…。

神戸が銃を奪い三人に向ける。

神戸　なんや、生きてるんだったらこんなところに用はあらへん。お前らみたいなわけ

のわからん連中にもなあ！

三人は黙って神戸を見てる。

神戸　…死ねや。

引き金を引くが弾は入ってない。

神戸　あれ？

三人が爆笑する。それぞれ神戸のモノマネ。

ピエロ　そんなミスするわけじゃない！　弾は最初から一発しか入れてないの！

ソニー 予想通りだ。お前なんて予想通りすぎてこうだ。「ぶううう」。

三人爆笑。

神戸 なんや、なんやねんもう(ちよつと泣きそう)

神戸がウロウロして出口らしきところ見つける。

ソニー あ、逃げるぞ。

安藤 あれ逃げるねえ。

ピエロ これも予想通りだ。

神戸 覚えてろよ!

神戸がいなくなる。

ソニー あーあ。

安藤 行っちゃった。

ピエロ 行っちゃったねえ。

三島が入ってくる。

安藤 あ、ドクター。

ソニー ドクターだ。

三島 あれ、ここにいたアイツは?

ピエロ たった今逃げました。

三島 ふーん、そうか、そこにいたアイツは今すれ違ったアイツか。どうせすぐ帰ってくるでしょ。ハリー達ももうすぐ帰ってくると思うから、そしたら食事にしよう。

安藤 はい。

ソニー ガー飯。

画面が不思議な発光をする。

ピエロ あ、言ってるそばから帰ってきた。

奥からハリーとゴドーが帰ってくる。

三島 おかえり。

安藤 おかえりなさい。

ハリー おう、ただいま。

三島 どうだった？

ハリー やっぱりマヤ遺跡には歴史干渉の痕跡はあると思う。でも数が多くてどれがどれだか検討がつかない。だからオーパーツの回収は今日は見送った。明日以降だな。

三島 ごくろうさん。

三島 アルビー。一応映像には全部おさめてきてあるから、あとで解析頼む。

ピエロ 了解。

ハリー ん？ あれ、ここにぶっ倒れてた奴は？

安藤 ああ、神戸くん。

ハリー 神戸？ ああ、そう名づけたのか。

ソニー 俺がね、俺が名づけた。

ハリー ふーん。で、どこにいるんだ？

安藤 なんかね、逃げちゃった。

ハリー なるほどな。じゃあそのうち戻ってくるか。

安藤 行くところなんてないもんね。

神戸が走って戻ってくる。

ピエロ あ、もう戻ってきた。

安藤 意外と早かったね。

ソニー 根性なしだ、アイツ根性なし。

神戸が息を整えてる。

神戸 …おい、これ、どないなっとんねん。 …世界が終わっとるやないか。

ヴォルフが曲を奏でる。

③

全員集合している。

ピエロ 理解できた？

神戸 ちょっと待ってくれ。

沈黙

神戸 つまりは、ここは、俺からすれば未来ってことなのか？

ピエロ そう、希望の無い未来。

神戸 俺がおったのが20世紀、いや、二十一世紀やから…

ピエロ 八百年後くらいになるのかな。

神戸 うん、それで、俺は生きてまま連れてこられたっちゆうことでええんか？

ピエロ そう。君、死刑にされるところだったでしょ？ 寸前でさらってきたの。

ハリー 俺とコイツ（ゴドーを指して）でな。

神戸 八百年後の未来の世界のあんたらが、八百年前に死刑にされそうになってた俺をさらった。

ハリー ちゃんと身代わりと入れ替えてな。

神戸 身代わり？

ハリー まあ、よく出来た人形のようなもんだと思ってもらええればいい。ドクターが作った。

神戸 …そう。時間を遡る、タイムマシン、ってことでええの？

ピエロ 僕たちは箱って読んでるけどね。

沈黙

神戸 …信じられへん。

ハリー 最初はな、みんなそうだ。

神戸 百歩譲ってな、それが事実だとしてようや。でもな、なんで俺なん？

ピエロ 人選はいつもドクターが決めてるから。

三島 それについては後でちゃんと話そう。私は飯が食いたい。

ソニー ガー飯。

ピエロ みんな同じように集められてるからね、神戸もそのうち慣れるよ。

神戸 …あかんあかん、ありえへん！ おいドクター、とやら。

三島 ん？

神戸 俺、あんた知つとんねん。

三島 ああ。

神戸 なんの冗談やコレ？ ドッキリかなんか？

三島 ドッキリとは？

神戸 あんた、三島博士やろ？ ノーベル賞とった。

三島 ああ、そうだよ。

神戸 何が八百年後の未来や。もし本当にここが未来なら俺と同じ時代におったあんた

がおるはずがないやろ。

三島 確かに私は三島だが、厳密には13代目なんだよ。

神戸 は？

三島 初代の三島博士はクローン技術の権威だった。

神戸 ああ。

三島 私は、初代の三島博士から教えて13代目のクローンなんだ。

神戸 …。

三島 とにかく飯にしよう、私は腹が減っている。

ソニー ガー飯。

ゴドーとハリーと神戸を残し消える。

神戸 信じられるか、クソ。

ハリー 無理もないけどな。

神戸 …

ハリー …俺もアンタを知ってるぜ。

神戸 あ？

ハリー 俺はアンタが死んだ100年後くらいに生まれてるんでね。同じ日本人だしな。

神戸 ふーん。

ハリー 最低最悪の凶悪犯として犯罪史に名を残してるよ、あんた。

神戸 そうですか。

ハリー 何人殺したんだっけ、アンタ。

神戸 どうでもええやろ、そんなこと。

ハリー 怒るなよ、挑発してるわけじゃないんだ。

神戸 …。

ハリー 俺も同じだからな。

神戸 あ？

ハリー 俺だけじゃない。ここにいる人間はアンタと同じでクズしかいない。

神戸 …。

ハリー 俺も死刑囚だったんだよ。

神戸 …そうなんか。

ハリー あんたほどの犯罪は犯してないがね。

神戸 ふん。…なんで、そんな人間ばかり集めてるんや、ここは。

ハリー 俺たちがやってるのは歴史干渉、歴史改ざんってやつなんだ。

神戸 歴史干渉。

ハリー 過去に遡って歴史に手を加えて時代の流れを変える。

神戸 なんや、ようわからんな。

ハリー そのうちわかる。

神戸 ふん。

ハリー あんたも見たんだろ？ 外の世界を。

神戸 …ああ。

ハリー 世界はもうすぐ終わる。

神戸 …。

ハリー ここにいる俺たちがいなくなったら、完全に終わる。

神戸 ちよお待て。じゃあ何か？ 今、世界にはここにいる俺たちしかいないってこと

なんか？

ハリー そうだ。

神戸 人類みんな死に絶えたってことか？

ハリー 人類だけじゃない。全てだ。

神戸 なんてそんなことになってん。

ハリー わからん。

神戸 なんやねんそれ。

ハリー それがわかったらこんなことにはなっていないだろ。

神戸 は。そんで、この世界の終わりと、俺をさらってきたこととどう繋がんねん。

ハリー 歴史改ざんってのはとてもデリケートだね。例えば、道端にあった石ころを少し
ずらしただけで歴史の流れってのは大きく変わってしまうことがある。

神戸 ほう。

ハリー 俺やあんたのように、死刑になるようなロクデナシは未来になんの影響もない存
在だからな。

神戸 だからってさらってくんないや。

ハリー そのまま殺された方が良かったか？

神戸 …。

ハリー お互い、生まれた時代からは必要とされなかった命なんだ。似たもん同士だ、仲
良くやろう。

神戸が立ち上がる。

ハリー どこ行くんだ？

神戸 …飯。

ハリー こっちだよ。

ゴドーを残して二人、消える。

少年が現れる。

少年　　なんだか怖そうなたちだねえ。

ゴドー　　そうか？　馬鹿なだけだと思うけど。

少年　　そうかも。ね、ね、ね、一つ聞いても良い？

ゴドー　　なに？

少年　　歴史改ざんってなに？

ゴドー　　あく。　そうだな、例えば：

少年　　うん。

ゴドー　　嫌いな奴っている？

少年　　いる！　近所に住んでるポツツオっておっさん、アイツは嫌いだな。弱いものいじめするし。

ゴドー　　よし、じゃあそのポツツオっておっさんを消しちゃおっか？

少年　　消しちゃうの？　電気みたいに？　ついたり消したりしちゃうの？

ゴドー　　つきはしないけど消すことは出来るよ。

少年　　どうやって？

ゴドー　　そのポツツオっておっさんも生まれた時からおっさんだったわけじゃないよね？

お父さんとお母さんがいたから生まれてくることが出来た。

少年　　セックスしたってことだね？

ゴドー　　ああ、そういうとこすぐに飛び込んでくるタイプだ。まあ、そうだね、お父さんとお母さんが愛を育んだからポツツオは誕生した。そしていつしかおっさんになった。

少年　　うん。

ゴドー　　じゃあさ、そのポツツオのお父さんとお母さんが出会わなかったらどうなるんだろう？

少年　　セックスしなかったらってこと？

ゴドー　　うん、そこだわるのやめようか。そう、出会わなかったらってこと。

少年　　出会わなかったらって言われてもな。実際出会ったからポツツオは存在してるわけだしな。

ゴドー　　普通に考えればそうだね。でもね、例えば、過去に遡ってさ、ポツツオのお父さんとお母さんが出会うの邪魔したらどうなる？　二人は出会うことなく、それぞれ別の人と結婚してしまいましたとさ。

少年　　違う相手とセックスしたってこと？

ゴドー　　もうどうしても言いたい年頃なんだな、受け入れるよ。違う相手とセックスし

した。

少年 わかった！ ポッツォは生まれてこない！

ゴドー 正解。

少年 おお！ これが歴史改ざん？

ゴドー 簡単に言えばね。

少年 面白そう！ 僕もやってみたい、歴史改ざん。

ゴドー あゝ。

少年 ね、僕にもやらせてよ！ 歴史改ざん。

ゴドー …そんな、簡単じゃないんだなあ。

少年 え？

ゴドー 勉強は得意？

少年 え？

ゴドー 歴史改ざんをやるにはね、勉強が出来ないといけないんだ。

少年 そうなの？

ゴドー うん。どうということかと言うとね。

⑤

チャイムの音のようなギター音。

ドリフの学校のように椅子が並べる馬鹿ども。

騒ぐ馬鹿ども。

そこに、あらゆるドアを開けてやってくる三島。

三島 ガラガラガラ。はい、みんな席につけ。

席に着く馬鹿達。

三島 はい、それでは今日も一時間目から六時間目まで歴史の授業を行います。

大騒ぎで馬鹿。

三島 それでは、神戸くんがまだ慣れてないので、神戸くんの生きてた20世紀から21世紀頃の歴史を参考に授業を進めていきます。

馬鹿な返事達。

三島 はい、では安藤くん。歴史改ざんを行う上での基本的な理念を述べよ。

安藤 はい。現在、この世界に我々しか残されていないのは、人類が争い、殺し合い、この星の環境を破壊し蹂躪し、それによって引き起こされた災害、疫病、放射能汚染などですね、それらが重なり合った結果、とりかえしのつかないことになってしまったと捉えているわけですね。なので我々は人類の歴史を調べ上げ、歴史に干渉し、修正することによって、人類の滅亡を防ごうとしているわけです、ハイ。

盛り上がる。

安藤 人類が生き残り、この地球が減びずにすむ方法、我々はそれをCコードと呼んでいます（ヴォルフがCコードを鳴らす）ありがとう、ヴォルフ。そのCコードとはいったいなんなのか、それを探るのが我々の指名なのであります。ご清聴ありがとうございます。

盛り上がる。ブーブー言う奴もいる。

三島 お見事。わかった？

神戸 さっぱりわからへん。

安藤 えー。

三島 簡単に言うのだな、君のいた時代にも戦争はあっただろ？ それを止める方法を考えるということだ。

神戸 はあ、戦争を止める。なにになになに？ ひよっとして、これは世界平和につて考えようとかそういうこと（笑）

沈黙

神戸 え？

ゆっくり拍手が広がっていく。

神戸 え？ え？ ええて、そういうの。冗談のつもりで言うたらまたまた当たっただけやん。

ハリー …面白いことを言った神戸に。

チアーズ。

ハリー 良いやつだったな。

神戸 死んだみたいにすな！ いじめやぞこれ！ ドクター、みんながいじめてきます。

三島 じゃあ自殺しなさい。では何かアイディアがある人！

全員大騒ぎで挙手をする。

ハリーが二丁拳銃をぶっぱなし銃撃戦になる。

ハリー はい。

三島 はい。じゃあハリー。

ハリー はい。二十一世紀あたりの歴史を調べてみると、起きている戦争の要因はつまる
ところ宗教なのだと思う。イスラム教とキリスト教の宗教戦争。だからそのあたりに
歴史干渉をしてみればいいんじゃないかな。

感心の反応。

三島 なるほど。では具体的にどのように干渉する？

ハリー それは…

他の人たちが挙手。

三島 アルビー。

ピエロ うん。それについてはこの前ヴォルフとも話してたんだけど。ヴォルフの意見と

しては…

ヴォルフ (ギター)

ピエロ で。

ヴォルフ (ギター)

ピエロ という方向性もあり…

ヴォルフ (ギター)

ピエロ だって彼は言うんだけどね。

感心の反応。

神戸 …わかれへん。

三島 つまりは文化的侵略ということだね。

神戸　なんでわかんねん。

ピエロ　うん。でも同じ文化的侵略なら。例えばイスラム圏は性について禁欲的なわけでしょ？そこをくすぐるってのはどうかなって思うんだよね。

三島　具体的に言うとは？

ピエロ　キリスト教圏に溢れてるエロ本をいたるところにバラまくの。そのエロ本を手にしたイスラム教徒が「アメリカってこんなに素晴らしいの！」ってなって、自爆テロなんてバカバカしくてやめちゃうんじゃないかな。

拍手喝采。

三島　なるほど、なかなか良い意見だと思うよアルビー。でもね、その意見には一つ破綻がある。アルビーの意見はキリスト教のエロ文化が正しくてイスラム教の非エロ文化が間違っているという前提に立っているんだ。

ピエロ　あ、言われてみれば。

三島　文化的侵略っていう着眼は良いけどね、立ち位置がピースフルではない。

ピエロ　なるほど。

三島　エロで言えばだ。イスラム教は一夫多妻を認めている。

ピエロ　なんと。

神戸　そうなん？ええなあ、それ。

三島　だがキリスト教は一夫多妻を禁じている。中立な立場で言えばキリスト教もイスラムにおける一夫多妻を認めるべきだと思うのだが。

ピエロ　んー、でも一夫多妻なんてのは女性差別なんじゃないかなあ。

ハリー　一概にそう言えるものでもないぜ。あの制度は救済の意味もあるんだ。そもそもこの時代は男女比で言うとな性の方が多いんだよ。女性の方が寿命も長いしな。豊かなものが貧しきものに手を差し伸べるといふ意味合いもある。

神戸　そうなんか。

安藤　まー、でもこの時代は僕にとっては大変だなあ。僕みたいに両方の性別を持つてる人は旦那さんも欲しいし奥さんも欲しいもんね。その場合なんて言えばいいの？一夫多妻&一妻多夫制？

神戸　ほんまやなあ。かしなんや、クリスチャンでも浮気して一夫多妻状態の奴もおるやろうし、イスラム教徒でもネットでむっっちゃAV見とる奴もおるんやろうしなあ。

三島　お互いが宗教の原理の部分で戦争している、と見せかけて、目先の利益で戦争してるっていうのが実情だろうね。

神戸　末端の信者はその原理の部分信じて自爆テロとかしとるんやろ？上の方の連中はその純粋な心を利用しとるわけやな。

三島 その通り。だがそれはいつの時代も同じだ。

神戸 なるほどな。例えばな、こんなんはどうやねん。

三島 神戸くん。

神戸 頭はつとる人間をすげかえてしまうねん。

三島 というと？

神戸 ああ。俺の生まれる前のことやけど、ヒトラーちゆう人間がいてな、そいつはむちゃくちゃで、ユダヤ人をうん百万人と殺しとんねん。ま、例えばなんやけどな、俺らが歴史を遡ってヒトラーが子供の頃に出会って殺してしまえば、ホロコースト、ユダヤ人の大量虐殺はおこらんと違うか？ それって世界平和に繋がるやろ？

これまでとは違った反応示す馬鹿達。

神戸 ん？

三島 神戸、じゃあ君に聞こう。ではなぜ歴史上にヒトラーは存在してるのかな？

神戸 あ？

三島 私の先代である、三島博士の12代目のクローンが時間移動の技術を開発したのは今から100年前のことだ。当時、時間旅行は一般にも広く解放されていた。ちなみにだがヒトラーが殺したユダヤ人の数は600万人以上と言われている。

神戸 ああ、そんで？

三島 ユダヤ人の子孫がヒトラーを殺しに行く可能性は？

神戸 ああ、それはあるやろ。ご先祖様の復讐ちゆう奴がいてもおかしくない。それだけのことをしたんやから、ヒトラーは。

三島 だが、歴史上にヒトラーは存在している。

神戸 あれ？ ほんまや。なんでやろ？

三島 時間学という学問がある。その中でヒトラーの定理と呼ばれているものがある。

神戸 ヒトラーの定理？

三島 歴史上にヒトラーが存在しているのは、例えヒトラーを殺してもヒトラーに変わる誰かが現れユダヤ人への虐殺行為は行われる、簡単に言えばこういうものだ。

神戸 ほう、ほうほう。

三島 もう少し踏み込めばだ。我々の知っているヒトラーは既に何代目かのヒトラーである可能性が強いということになる。

神戸 ん？ ん？ ん？ もう少しわかりやすく。

三島 ヒトラーの前はベムラーという人がいたかもしれない。その次はバルタンという男がユダヤ人を殺したのかもしれない。

神戸 何を言うてんねん。

三島 ベムラーのした大量虐殺を恨んだユダヤ人の子孫が過去に遡りベムラーを殺した

が、改ざんされた新たな歴史ではバルタンが同じことをした。バルタンも殺したが今度はヒトラーが現れた。これが我々の知ってる歴史だ。

神戸　ん、ん、なんかわかってきたぞ。

三島　歴史の流れがユダヤ人への虐殺に及んでいるだけで、実行した、実行の命令を出したヒトラーは記号にしか過ぎないということだ。つまりは、歴史の流れは変わらないということ。

神戸　それがヒトラーの定理？

三島　大まかに言えばね。

神戸　なんやそれ。それじゃあ歴史改ざんなんてそもそもできひんちゆうことやないか。過去をいじくっても歴史の流れはかわらないんやろ？

三島　一概にそうとは言いい切れない。

神戸　どっちやねん。

三島　確認のしようがないのだよ。試しに君がヒトラーを殺してみたとする。それによって歴史の流れは大なり小なり変わるだろう。しかしだ、例えばヒトラーが殺したと言われているユダヤ人が助かるとする。仮に600万人がい生き延びたとしても。その生き延びたユダヤ人の誰かが神戸、君のおばあさんと出会い結婚したとする。

神戸　おい、俺おばあちゃんっ子やねんぞ。ほんならうちのじいさんはどうなんねん？

三島　おじいさんと出会う前におばあさんは素敵なユダヤ人と出会った。

神戸　え？　するとどうなんねん？

三島　生まれてくる子は君の父親ではなくなる。ということとは？

神戸　…俺もこの世に生まれてけえへん？

三島　*；；？！。

神戸　…わかれへん。え？　そしたらここにおる俺はどうなんねん。

三島　最初からいなかったことになる。

神戸　…そうなんか。

三島　それすらも確認のしようがないがね。

神戸　…ま、ええけどな。

三島　ん？

神戸　俺みたいなもんは、生まれてこなくても良かっただろうしな。始めからいなければ人様に迷惑かけることもなかったろうし。ええやん、歴史改ざん、大いにやったろうやないの。

全員が神戸をにやにや見ている。

神戸　あん？

安藤　合格、だね？

三島 ああ。
ピエロ おめでどう！
ソニー ガーおめでどう。
神戸 なになに？ どういうこと？
ハリー オーディションだよ、オーディション。
神戸 オーディション？
三島 君の考え方が我々に合うかどうかを試験させてもらっていたんだ。
神戸 もうやめや、そういうの。
安藤 普通の人だとね、びびっちゃうんだよ、歴史改ざんって。自分の命も惜しいしね。
三島 自分の命を消耗品として捉えられるか。審査基準はそこだった。
神戸 もし、オーディション落ちてたらどうなってたん？
三島 聞きたいか？
神戸 いや。
安藤 殺してたに決まってんじゃーん。
ソニー ガー殺す。
神戸 あー、やっぱそうなんや。まったく、命の軽い現場やの。

ゴドーと三島を残してワイワイいなくなる。

ゴドー 使えるのかあれは？
三島 わかりません。
ゴドー 貴様を選んだんだろう。
三島 所詮、人間ですから。
ゴドー 自虐のつもりか？
三島 いいえ。冷静な分析を言ってみたままです。
ゴドー …時間はあまり残されてないぞ。
三島 …。
ゴドー この編成でいくのか？
三島 そのつもりです。
ゴドー そうか。
三島 はい。

三島が行こうとする。

ゴドー わかっているな、失敗すれば全てが終わるんだぞ。
三島 …わかっています。

三島が去る。

少年がやってくる。

少年 お兄さん。

ゴドー なんだ、人間。

少年 は？

ゴドー ん？ どうした小僧。

少年 (蹴る)

ゴドー 痛い。何をする。貴様、誰に向かって…

少年 (蹴る)

ゴドー よく聞け小僧、貴様のやっていることは冒涇というもの…

少年 (蹴る)

ゴドー …何すんだよ、痛いなあ。

少年 急に態度でかくなりやがって。

ゴドー え？ そうだった？

少年 そうだったよ。

ゴドー あ、なんか、ごめん。

少年 生意気だぞ。気をつけろよ。

ゴドー ホントごめん。

少年 せっかくジュースおごってやろうと思ったのに。

ゴドー あ、そうだったんだ。

少年 まったく。

少年 でもさあ、やっぱり難しいもんなんだね。

ゴドー 何が？

少年 歴史改ざんって。

ゴドー まあ、そうだね。

少年 失敗したら命取りなんだもんねえ。

ゴドー そうだね。

少年 ん？ 成功しても命とりなのかな？

ゴドー あゝ、まあ、何が成功で何が失敗なのかってことなんだろうけど。

少年 ちよっとしたこと歴史は変わっちゃうんだもんね。

ゴドー うん。

少年 ん？ え？ なに？ ってことは今僕がいるこの時代も歴史改ざんの後に出来た

世界ってことになるの？

ゴドー まあ、そういうこと。

少年 (笑) ほんとにいい？ 全然そんな実感ないんだけど。
ゴドー 実感あるわけないもの。
少年 え〜？
ゴドー なんでもない。
少年 ねえ、お兄さんは何にする？
ゴドー 何が？
少年 ジュース。おごるからさ。
ゴドー あ、ほんと？ じゃあ…コーラで。

少年がはけていく。

少年 コーラ？ 何それ？ 聞いたことないよ、そんなの。
ゴドー あく、この歴史にはないのか。
少年 コーラって飲みものがあったの？
ゴドー ああ。ものすごく有名だったんだ。
少年 残念だけどこの時代にはないなあ。
ゴドー そう、じゃあなんでもいいや。
少年 じゃあ、この時代で一番有名な飲み物にするね。
ゴドー お願い。

少年が戻ってくる。

少年 はい。(渡す)
ゴドー …これは？
少年 メロイーエロー。
ゴドー これはあるんだ、コーラねえのに。
少年 え？
ゴドー いや、なんでもない。
少年 どうしたの？
ゴドー 歴史の流れは誰にもわからない。私にすらわからない。
少年 泣いてんの？
ゴドー 泣いてない。

⑥

ヴォルフがギターを爪弾いている。

神戸とハリーがコンピューターをいじっている。
安い爆発音がある。

神戸 …あかん！ また失敗や！

ハリー …どんまいい。

神戸 …ったく、そもそもがこういうデスクワーク苦手やねん、俺。

ハリー …そうは言ったってね、これで歴史改ざんの基礎を覚えてもらわんと。

神戸 …こんなんで覚えられんのかい？

ハリー …このシミュレーターは地球が誕生してから今に至るまでの全ての情報が詰まっている。ゆえに、まずはこれで正解をはじき出せなきゃな。

神戸 …たかがゲームやんけ。

ハリー …人類の存亡をかけたゲームだ。

神戸 …ふーん。

ハリー …じゃあ次行くぞ。「北朝鮮が衛星を打ち上げようとしています、どうしますか？」

神戸 …そんなもんはガツンやったらええねん。「アメリカから核をぶちこみます」

安いピンチ音が流れる。

神戸 …あれ？ あかん、戦争になってもた。第三次世界大戦やて。

「ピューン、ボカーン」という音。

神戸とハリーが黙って見つめ合う。

ヴォルフがマリオのゲームオーバーのメロディを奏でる。

神戸 …やかましいわ！

ハリー ……お前さ。

神戸 …あ？

ハリー …随分と、馬鹿だろ？

神戸 …うるさい。

ハリー …何が戦争になってもた、だよ。戦争しかけたのお前の方だろ？

神戸 …いいから黙っとけ。

ハリー …じゃ次行くぞ。えーと「中国の反日感情が高まっています、どうしますか？」

神戸 …あー、この場合はと。

ハリー 核使うなよ。

神戸 わかっとる。 …えーと「とりあえずジョジョを読ます」。

ハリー なんだよそれ。テキトーだろ？

神戸 ええねん、こんなんで。

ピンポーンの音。

神戸 おお！ 正解や！ 反日感情下がっとる。偉大やな、ジョジョ。

ハリー ふん。次だ。「ジョジョの効果により中国の反日感情は下がりました。ではより友好的になるために必要な行動を入力せよ」

神戸 よっしゃ、こうなったらもうわかった。これや、これしかない。「ここぞとばかりにバキを読ます」エンター。

ピンチ音からのピューボカーン。

神戸 …バキに何が描いてあつてん。

ギターで冒険の書が消える音。

神戸 やめれや！ トラウマやねんそれ。あーもうこれ勘弁してくれへん？

ハリー ダメだ。

神戸 俺絶対現場向きやねん。体使って働くほうがむいてんねん。だからさ、ほれ、タイムマシン乗ってさ、直接歴史改ざんやらして。

ハリー ダメだ。

神戸 頼む、直接やらして。

ハリー ダメだと言っている。

神戸 頼む、やらして。

ハリー ダメ。

神戸 お願い、一回だけ、一回だけ。

ハリー ダメってなんか変な感じになってきてるぞ！ そもそも過去に遡るってのはデリケートな作業なんだよ。その時代の人間に見つかったらダメだし。姿を見られた時点で歴史に干渉してるってことになるんだぞ。

神戸 あー、それはえらい難しそうやなあ。

ハリー だから、俺やアルビーみたくエースが担当することになってるんだよ。

神戸 うーん。

アルビーがやってくる。安藤さんとゴドーを連れてる。

ピエロ よし、全員揃ったな。

安藤 (敬礼して) はい！ 揃いました。

ピエロ それでは、これからタイムワープを行う。

安藤 は、はい！

ピエロ なんだ安藤、緊張してるのか？

安藤 は、はい！ 申し訳ありません！

ピエロ ふむ。まあ無理もない。君はまだ慣れてないからな。

安藤 はい！ もし失敗したらと思うと、不安でたまりません。

ピエロ 安心しろ。私は百戦錬磨のエースだ。失敗などありえない。なんせ私は今まで一度も失敗したことがないのだ。

安藤 そうなんですか？

ピエロ ああ。ただの一度もだ。

安藤 凄い。

ピエロ いいか、二人ともよく聞けよ。過去へ遡るといいうのはとても危険な行為だ。我々の姿が過去の人々に見つかってしまっただけで歴史が変わってしまうことになる。

安藤 はい。

ピエロ 我々が移動する箱、タイムマシンだな。このタイムマシンが見られてもいけないし、我々自身の姿が見られてしまうなどもつてのほかだ。

安藤 正直、自信がありません。

ピエロ 君は操縦は初めてだったな。

安藤 はい！

ピエロ 大丈夫、タイムマシンにはステルス機能が付いている。それも最新のだ。過去の人類の科学力ではこのステルス機能を見破ることは出来ない。

安藤 そうなんですか？

ピエロ ああ。だから安心しろ、見つかることなどそうそう無いのだよ。

安藤 よかった。

ピエロ うん。だが、ステルススイッチを押し忘れたらあつという間に見つかってしまうから気をつけるんだぞ。

安藤 はい！

ピエロ コックピットに座って、目の前に二つ並ぶスイッチの右の方がステルススイッチだからな。

安藤 コックピットに座って目の前のスイッチを右ですわね？

ピエロ そうだ。では防護マスクを着用！

安藤 はい！

三人グレイタイプのマスクを被る。

安藤 今日はどこへ偵察に向かうんですか？

ピエロ うむ。1947年のアメリカはニューメキシコ州、ロズウェルの辺りを偵察しようと思う。

安藤 了解しました！

ピエロ 大丈夫、百戦錬磨の私がついてる！ 大船にのったつもりでいろ！

安藤 はい！

ピエロ では出発！

安藤 進行！

行こうとする三人。

神戸 ちよちよちよ、待てえ！

ピエロ ん？ なんだ？

神戸 なんだちやうやろ。どういふつもりやねん、その格好。

ピエロ その格好？

三人が身だしなみを確認する。

安藤 アルビー、ネクタイが。(なおす)

ピエロ お、ありがとう。よし、じゃあ出発！

安藤 進行！

行こうとする。

神戸 ちよちよちよおちよお待て！

ピエロ まだ曲がつてる？

神戸 ネクタイのこととちやう。それ、今かぶってるそれ！

ピエロ ああ、この防護マスク？

神戸 防護マスクなん、それ？

ピエロ うん。時代によって空気が合わなかったりしてアレルギーが出たりすることがあるからね。特に僕は肌が弱いし。

神戸 そうですか。

ピエロ うん。これがどうかしたの？

神戸 なあアルビー、こんなこと言うのはなんやけど、お前全然エースちゃうで。

ピエロ ええ？

神戸 一回も失敗したことない言うてたけど、多分失敗しかしてへん。

ピエロ ええ！ ええ！

神戸 いっつもこれかぶって偵察しとったん？

ピエロ 大気汚染の酷い時代はこれつけてくようにしてたけど。

神戸 これ、俺のおった時代ではめっちゃ有名やで。

ピエロ ええ！ ええ！ ええ！

神戸 散々宇宙人やグレイタイプや、言うとったけど、あれ、お前やったんやなあ。

ピエロ 宇宙人？ そんなあ。

あわあわ言いながら崩れるアルビー。

ピエロ いや、いやいやいや、しょうがない。誰でも失敗はあるものさ。幸いなことにこ

のマスクを被っていたのは産業革命以降の時代に行った時に限られてる。全ての時

代に干渉したわけじゃないんだ。どんまいアルビー。

神戸 ああ、いっつも被ってたわけではないんやな。

ピエロ そうだ。それ以外の時代には普通に人々の中に紛れ込んで偵察している。一度も

怪しまれたことはないはずだ。いいか、安藤、人は失敗することもある！ だがそ

の失敗が人を成長させるのだ！

安藤 はい！

神戸 あ、あの、アルビー、追い打ちをかけるようで申し訳ないんやけど。

ピエロ ん？

神戸 お前、その格好で色んな時代に紛れ込んだん？

ピエロ ふっふっふっ、馬鹿め、僕がそんなイージーなミスをすると思うか？ おろかも

のめい！ ちゃんと時代に合わせた衣装を着て紛れ込んでいる。なぜなら僕はおし

やれさんだからなあ！

安藤 アルビーのおしゃれさん！

ピエロ もっと言って！

安藤 アルビーのファッションリーダー！

ピエロ もっと頂戴！

神戸 うん、うん、うん、それはええねんけどな。

ピエロ ええねんけど？

神戸 問題はその顔やねん。

ピエロ 顔？

神戸 お前な、自分が思ってる以上に、白いねん。

ピエロ ええ！

神戸 そして鼻が赤いねん。

ピエロ 鼻が、赤い？

神戸 アルビー、ピエロ恐怖症ってのがあってな、人間って本能的にピエロを怖がってしまふんやって。でもその原因がなんなのか、俺のおった時代では解明されてなかつたんやけど、ようやくわかったわ、あれ、お前が原因や。

ピエロ ええ！

神戸 色んな時代をその顔でうろついて、遺伝子に恐怖心を植えつけとんねん、お前。

ピエロ そんな。えーと、なんだっけ？

神戸 ピエロ恐怖症。

ピエロ ピエロ恐怖症！（わなわな）

神戸 ジョニー・デップもそうやねんぞ。

ピエロ ジョニー・デップ！ って誰！（わなわな）知らない！（わなわな）。

アルビーが崩れる。

ピエロ （震える足を叩きつつ）いや、いやいやいや、しょうがない。ミスはミスだ。これ以上しなければいいだけの話した。どんまいアルビー。

ハリー アルビー、さらに追い打ちをかけるようで悪いんだけど、さっきステルススイッチがコクピットの右側だって言ってる、あれ、逆だよ。

ピエロ ええ！

ハリー ステルススイッチは左だよ。

ピエロ じゃあ右は？

ハリー ワイパー。

ピエロ ええ！

神戸 タイムマシンにもワイパーって必要やねんな。

安藤 一つの時代も雨は降るからねえ。

ピエロ ええ！ ちょっと待ってちょっと待って！ じゃあじゃあ何から何まで丸見えだつたってわけ？

神戸 ああ。だから、あの箱、タイムマシンも丸見えやったんよ。俺の時代ではUFOって呼ばれてた。

ピエロ そんなあ。

アワアワ言いながら崩れるアルビー。

ピエロ んん、んんんん。

神戸 お？ なんや？

ピエロ んんんしゅっぱーっ！

アルビーが発発する。ゴドーと安藤くんも追う。

ハリー しょうがないな、アルビー、俺も行くよ。

ハリーも追う。

なんとなくソニーの椅子に座りそれを見送る神戸。

ソニーがやってくる。

ソニー …椅子。

神戸 あ。

ソニー 椅子、俺の。椅子。

神戸 ああ、ああ、これな。ほい。

ソニーにイスを譲り、シュミレーター前に戻る神戸。

ソニーは神戸の存在を気にしながらPCをいじる。

ソニー …えっと…ソニー…ソニーだから…ソ、ソ、ソ…エス。そう、エスだ。エスつと。

で、次がAはこういう形、こういう形。あ…これ、かな？ それから、それから、

あーうー（頭を抱える）。

神戸 ちよお、何してん。

ソニー …。

神戸 字、覚えようとしてんのか？

ソニー …。

神戸 どれ。ソニーって打ちたいんやな？ ん？ ソニーって綴りどんなんやろ？ プ

レステのソニーと同じなかな。

ソニー さうねい。

神戸 は？

ソニー さうねいって覚えるといいつて。アルビーが。

神戸 さうねいさうねい？ ああ、なるほどな、エス、エーやから、さうねい、ダブル

ユーやろうな。ソニー、これや。

ソニー これが？

神戸 さうねいの「う」やな。

ソニー う、ダブリュー？

神戸 そ。さうねいの「う」ほれ、こんな口の形と似とるやろ？ 「う」。

ソニー ホントだ。「う」。ダブリュー。

神戸 で、次がネイやから。ネイはこれと、これとこれな。とんとんとんって。

ソニー これとこれとこれ？

神戸 そう。エヌイーワイやな。

ソニー エヌイーワイ。

神戸 そうや。出来たやないか。

ソニー まだ。ビーン。

神戸 ビーン？

ソニー うん、ビーン。

神戸 ソニー、ビーン？

ソニー そう、ソニービーン。

神戸 お前、ソニービーンっちゅうのが本名なんか？

ソニー ソニービーン、ソニーの名前。

神戸 そうか。じゃあビーンは。

ソニー べあん。

神戸 べあん。べあんはおそらくB、E、A、Nやな。ソニー、まずこれ、べあんのべ

はB。横から見た唇みたいのな、これや。

ソニー ホントだ唇。B。次はさうねいのねと一緒？ ここでE？

神戸 おお！ そうやそうや！ やるやないか！

ソニー べあんの「あ」もさうねいのさのあ？ A？

神戸 正解。

ソニー べあんの「ん」は〜

神戸 んは大体Nでええんや。N、どれやった？ さつき出てきたで。

ソニー これ？

神戸 そう！

ソニー 出来た！

神戸 そうか、おめでとう。

ソニー …。

神戸 ん？ どした？

ソニー …神戸、ありがとう。

神戸 いや、別に、そんな、なあ。

ソニー 顔が、嫌いの逆かな。

神戸 おお、そうか。

ソニー ぶううううう。

ソニーが去る。

ソニーの後ろ姿を見送る。

なんとなくPCをいじる。

神戸 ソニービーンと。…お、出た。(読む)…なんやねんこれ。

ドクターが入ってくる。

三島 よ。

神戸 お、ああ。

三島 どうした？

神戸 いや。

三島 (画面を見て) ああ、ソニーのことか。

神戸 ああ、これ、エグいな。

三島 人喰い一族ビーン一家。16世紀のスコットランドで数百人の人間を食ったキチガイ家族。そこに載ってるソニービーンっていうのはソニーの祖父だ。

神戸 夫婦で人を食ってたって書いてあるけど、マジなんか？

三島 ああ。洞窟に隠れ、夫婦で旅人を襲ってな。そして食った。そのうち子供が何人か生まれ、その子供同士がまた子供を作った。

神戸 …近親相姦。

三島 そうだ。そして生まれたのがソニーだ。

神戸 しかし、人を食うって、そんな。

三島 親どころか、祖父の代まで人喰いだったんだ。ソニーにとって家族以外の人間は食い物でしかなかった。閉ざされた空間で限られた情報だけ与え続けたら人間はどんなふうにもなる。概念からして違うんだ。

神戸 せやけど、なあ。

三島 ソニーをここに連れて来たばかりの頃は大変だね。まだ人は食うもんだと思っていたから、アルビーなんてよく食われそうになってたよ。

神戸 そうなんや…なあ、ドクター、聞いてもええか？

三島 なにかね？

神戸 ソニーもそうやけど、なんで俺たちみたいなものばっかり集めんねん。俺たちの任務が歴史改ざんなのはようわかった。でもな、それをするなら何も俺たちみたいなアホやなくてええんと違うか？ なんちゅうか、もつと正しい、優秀な人材がいるやろ？ それこそ歴史に名を残したような人たちがよ。

三島 言いたいことはわかる。

神戸 せやろ？

三島 でもな神戸、じゃあなぜ世界は滅ぶんだ？

神戸 あ？

三島 この歴史は正しくて優秀な奴らが作った歴史だろ？ ではなぜ滅ぶ？

神戸 あ。

三島 民主主義でも社会主義でもこの際なんでもいい。その国家の中で優秀な人間が、エリートがトップにたつて国を動かしていたはずだろう？ なのにそのエリート同士が戦争という手段を選び、この星を蝕み続け崩壊させてしまったんだ。

神戸 …。

三島 なんてね。ともかく、君の言う優秀な人間には未来を作る能力は無かったということになる。だってほら、滅んじやってるから、人類は、既に。

神戸 基準そのものが間違ってたってことなんか。

三島 少なくとも未来を創造をするという意味では。

神戸 だからって、俺みたいなものに出来るんかの。

三島 それはわからない。

神戸 …なんか、怖なってきたな。

三島 え？

神戸 だって、責任重大やんか。

三島 責任。

神戸 もし失敗したら人類は滅んでしまうんやろ。

三島 別に滅んでもいいじゃないか。

神戸 あ？ なんやねんそれ？

三島 はは、冗談だ。

神戸 ったく。

三島 もし我々が失敗しても、次に繋げれば良い。

神戸 次？ 無理やろそんなの、人類自体が滅んでまうねんから。

三島 改ざん後の世界にたくせば良いのさ？

神戸 だからそれこそできひんやろ？ 歴史を変えた瞬間、俺たちの存在は消えてしま
うんやろ？ 生まれてこなくなる可能性が強いんやから。もし運良く生まれてきた
としても記憶が残ってるわけないんやから。次につなげることなんて…

三島 だから、改ざんする前に埋めに行くんだよ。

神戸 埋めに行く？ 埋めに行くってなんやねん。

三島 オーパーツだよ。

神戸 オーパーツ？

三島 君に見せたいものがある。来たまえ。

三島が行く。

神戸 おい、ちよお。

神戸が追う。

ヴォルフがギターを爪弾く。

⑦

勝負っぽい音楽。

少年とゴドーが向き合ってる。

少年 えああああああああそおおううううう。

ゴドー (重なりつつ) めきいんなまああああああああ。

静寂

少年 (ポーズと同時に) ふあっつもっしやっしや！

ゴドー じゃけんしもしゅうとく！

静止。

そつとボールを転がす。

少年が人差し指を立てて「もう一本」の合図。

ゴドー ああ、うん。

向き合う。

少年　りいいいくるばあああぬまああぬ。
ゴドー　あうううんつべたああむなあむ。

静寂

少年　ぺりみんくりそ！　へめるばれとな！（二段攻撃）
ゴドー　すかつちあわじんじええ！　へびりぼつつんがあ！

静止

そつとボールを転がす。

少年　あくまた負けた！　やっぱお兄さん強いや。
ゴドー　そうなの？　俺いまだにルール掴めてないんだけど。
少年　それでその強さだもん、才能あるよ。
ゴドー　へー、俺、これの才能あるんだ。
少年　スポーツ得意なんだね。
ゴドー　え？　これスポーツだったの？
少年　そうだよ、なんだと思ってたの？
ゴドー　子供の悪ふざけかと。
少年　なんだよそれ。れっきとした球技だよ。
ゴドー　あ、これ一応球技なんだ。
少年　四年に一度はワールドカップもあるし、世界的に人気なんだぜ。
ゴドー　そうなんだ、サッカーみたいなもんか。
少年　サッカー？　なにそれ？
ゴドー　あ、サッカーはないんだ。やっぱり改ざん後の歴史に慣れるには苦労するなあ。
少年　（急に）ふぶりもくさんたた！
ゴドー　きやつていやちよつえぼ！

そつとボールを転がす。

少年　やっぱつえくな
ゴドー　あの、もうやめてくれる。なんだかハートが辛いんだ。
少年　あ、そうそうオーパーツの話だったね。
ゴドー　あ、そうそう。

少年 オーパーツって何？

ゴドー あれ？ 知らない？ この歴史には無いのかな。その時代の科学技術では作れないはずのもの、それがオーパーツなんだけど。

少年 ああ、『ムー』によく載ってるやつだ。

ゴドー 雑誌の？ 『ムー』？ あんの？ コーラもサッカーもないのに？ すげえなあ『ムー』。

少年 オーパーツってピラミッドとか、ナスカの地上絵のことでしょ？

ゴドー そう。それらもオーパーツの一種だね。

少年 そのオーパーツと、歴史改ざんとなんの関係があるの？

ゴドー 実はね、オーパーツっていうのは歴史改ざんの記録なんだよ。

少年 歴史改ざんの記録？

ゴドー 繰り返してしまわないためにね。ヒトラーの定理については話しただろ？ 歴史改ざんをしても時代の流れを変えられないことはある。その場合ヒトラーを殺しても意味はない。次の誰かがまたヒトラーと同じことをしてしまうからね。でもそのことを知らずに次の歴史でヒトラーに替わる誰かを殺したら？

少年 ループだよループ！ ゲームによくあるやつだ！ 僕の好きなセガサターン4のゲームにもそういうのある！

ゴドー いまとっても気になること言ったけどあえて流すね。そう、ループしてしまうんだ。だからヒトラーを殺す前に、ヒトラーのいる時代より過去に遡って記録を残しておく。情報をセーブするんだ。

少年 今からヒトラーを殺しますよって？

ゴドー それだと改ざんしたあとでわからなくなってしてしまうのもっと暗号風に。「ユダヤの民を虐殺せし者に神の裁きを」とかね。

少年 なんか予言みたい。

ゴドー そうなんだ。オーパーツメッセージはたまに見つかっちゃったり解説されちゃったりしてね予言になっちゃうことがあるんだよ。

少年 へー、すっげー、ほー、ふーん。

ゴドー あのさ。

少年 何？

ゴドー お願いがあるんだけど。

少年 何？ またこれやる？

ゴドー それはもう良いんだ、むしろもう二度と。

少年 じゃあなに？

ゴドー …セガサターン4を見せて頂けないでしょうか？

少年 なんだ、そんなこと？ いいよ。おいでよ。

ゴドー ほんとに？ やった。

少年 (行きながら) ホントはドリキヤス3が欲しいんだけどね、高くてさ。
ゴドー ドリキヤス3があるんだ。この歴史はセガが勝ったんだ。

等々言いながら去る。

⑧

神戸は画面をタッチしてデータを調べている。

光が安藤くんを抜く。

安藤 熱心だね。

神戸 ん？ そうか？

安藤 そんなに頑張ってるすんのさ。

神戸 ん？ オーパーツにこめられた過去の改ざんデータをしっかり頭に叩き込まんな。

安藤 神戸くんってさ、人殺しでしょ？

神戸 ん？ そうやな。

安藤 人殺しなのにさ、人類の滅亡を食い止めようとしてるんでしょ、なんかへーん。

神戸 まあ、せやな。

安藤 …。

神戸 『No. 297。エストラゴン。処女より生まれし神の子を神の元へ』えーと、(目をつぶり)これは297回目の歴史改ざんで実行者がエストラゴン。処女より生まれし神の子はキリストか、キリストの前のキリストを神の元へ、これは殺したつちゆうことやな。宗教の元を断つことで宗教戦争を回避しようとしたわけや。でも代わりにキリストが生まれたので失敗と。ふんふん。

安藤 …へーん。

神戸 え？ ああ、ま、なんやろな、この感じ。まだ誰もなしとげないことに挑む感じ？

そんなんがええんやろな。

安藤 ふーん。…人間ってよくわからないな。

神戸 (笑)まるで人間ちゃうみたいない方やな。

安藤 人間じゃないもん。

神戸 え？

安藤 あれ？

神戸 安藤くん、人間ちゃうの？

安藤 言ってなかったっけ？

神戸 聞いてへんよ。

安藤 ごめーん。(テへ。ペロ)

神戸 え？ 人間とちやうんなら、いったいなんなん？

安藤 アンドロギュヌス。

神戸 あんどろぎゆぬす？

安藤 うん、ドクターに作ってもらったの。

神戸 作ってもらったって。そもそもなんやねん、アンドロギュヌスって。

安藤 僕もよくわかんないんだけど、なんかね、人類が誕生する前の人類なんだって。

神戸 人類が誕生する前の人類？

安藤 元々ね、人間はみんな僕みたいな感じだったんだって。

神戸 僕みたいな感じって？

安藤 両性具有？ わかる？ 両性具有って？ つまり、ちんことま…

神戸 あ、ええよ、みなまで言わんでも。

安藤 うん。それでね、元々人間は男と女に分かれてなくてね、僕みたいな感じだったのを、なんか態度がでかかったらしくて、神様が怒って二つにわけちゃったんだって。

神戸 男と女に？

安藤 そう、男と女に。それ以来、人間は離れてしまったもう半分の自分の求めて恋をするようになったんだってさ。

神戸 へー、なんか素敵なお話やん。

安藤 ね。でもね、実際は大変なんだよ両性具有って。だって生理の二日目と朝立ちが同時に…

神戸 だからえて、言わんで。素敵なお話しや言うとしたとこやん。なんで下世話な話に落としこむねん。

安藤 てへ。ごめんね。

神戸 かわいいわ！ なんかもうかわいいわ安藤くん。

安藤 ほんと？ ありがとう。あ、そう言う神戸くんもよく見ると…

神戸 え？ なに？

安藤 とつてもお顔が…嫌い！

神戸 言うと思った！ 言うと思ったけど許すわ、かわいいわ。

安藤 (男声) ありがとう。ちゆ。

安藤くん、去る。

神戸 …そうやんな、男でもあるんよな。

神戸がデータを見ている。

光がハリーを抜く。

神戸　しかしアレやな。

ハリー　ん？

神戸　歴史改ざんってのはこんなにも行われてるもんなんやな。

ハリー　ああ、確か七百回以上はされてるはずだ。

神戸　七百回も挑戦して失敗してんねん。本当に見つかるとかなCコードなんて。

ハリー　さあなあ。

神戸　七百回か。

ハリー　うん。

神戸　人間は七百回も滅びようとしてるのに何も学習せんのかな。

ハリー　(笑) 厳しいな。

神戸　だってそうやろ？

ハリー　まあな。

神戸　『No. 439。日、出る国の首都に太陽が落ちる　神の手がこれを沮む』日、

出ずる国：日本やんか：日本の首都に太陽：太陽。

ハリー　おそらく原爆のことだと思う。

神戸　ああ。東京に原爆を落とされるの阻止したわけやな。

ハリー　多分な。

神戸　それでも、広島と長崎には落とされてしもてんな。

ハリー　ああ。

神戸　：ん？　これは？　どういうことやねん。

ハリー　どうした？

神戸　今、改ざんされた歴史を時系列順に並べてるんやけどな。

ハリー　ああ。

神戸　ヒトラーに関わるような改ざんの証拠が見つからんねん。

ハリー　ああ、そのことか。

神戸　おお。

ハリー　見に行ってみるといい。

神戸　え？　見に行くって、ヒトラーのいた時代にか？

ハリー　ああ。

神戸　なんで？

ハリー　神戸。

神戸　ん？

ハリー 見たもの以外は信じるな。
神戸 え？
ハリー 違うな。見たもの以外は無いものなんだよ。
神戸 なんや、ようわからん。
ハリー そのうちわかる。
神戸 …あんたはいつつもそうやな。
ハリー (笑) そうか？
神戸 …ハリー、一つ聞いてもええか？
ハリー なんだ？
神戸 あんた、死刑囚だったって言ってたな。
ハリー ああ。
神戸 何したん？
ハリー ぐぐれカス。
神戸 え？
ハリー ジョークだ。
神戸 もうやめて、この連中は冗談のタイミングがわからんねん。セオリー無視やし。
 関西人を代表して言うわ、そういうのやめてあげて。
ハリー (笑) すまん。
神戸 ほんとに。
ハリー …俺は、戦犯だったんだ。
神戸 戦犯？
ハリー 戦犯にされたっていうのかな。俺が軍人だったって話はしたっけか？
神戸 いや、初耳やで。てか、軍人？ 日本人やろあんた。軍隊なんてあらへんやん。
ハリー (爆笑) 神戸、日本が戦争してなかったのはお前がいた時代だけだぜ。
神戸 あ、そうなんや。
ハリー 俺は中隊を率いていてな。最前線にいた。
神戸 ほう。
ハリー まあ、日本はまた負けたわけだが。俺は捕虜になって軍事裁判にかけられた。
 そしていつのまにか数十万人を殺した犯罪者になっていた。
神戸 実際やったんか？
ハリー 負けかけてた国の最前線の部隊に数十万発の弾薬があると思うか？
神戸 せやな。でも、なんでそんなことになつてん。
ハリー 戦争に勝つ国は被害者じゃないといけないのだろうな。正義と言い換えてもいい。
 そして負けるのはいつだって加害者、つまりは悪だ。
神戸 でも、やってへんのやろ？
ハリー ああ。でもな、この場合、俺がやったかどうかよりも、そういう奴がいたという

ことを多くの人間に信じさせる事が重要なんだよ。結果的に奴らの思惑は成功し、俺は歴史に名を残す犯罪者になったんだ。

神戸 冤罪やんか。そんなことってあるんやな。

ハリー ああ。

神戸 けったくそ悪い。

ハリー 神戸、歴史つてのは面白いよな。過去のことなんて誰もみていないし、知りもしないのに、それが事実や真実として語られる。残された遺跡、文章、映像を元にそれぞれが勝手な解釈をしているに過ぎないのに。

神戸 …ああ。

ハリー でもさあ、きっとその解釈も間違ってたんだろうな。人は過去からしか学べないのに、その過去を捻じ曲げて伝えてきちゃったんだもの。捻じ曲がった過去を受け取った現在は捻じ曲がった未来しか作れない。滅びるのも当然かもしれないなあ。

ハリーが消える。

神戸が作業に戻る。

ソニーに光が当たる。

ソニー ねえ神戸。

神戸 おう、ソニーか、どうした？ また字教えて欲しいんか？

ソニー ううん、それはねえ、もう大丈夫なの。英語はねえ、もう読めるようになったの。

神戸 おお、そうか。

ソニー あとねえ、フランス語と中国語と日本語は読めるようになったの。あとエスペラント語。

神戸 そ、そうか、逆に凄いな。

ソニー 逆？ なんの逆？

神戸 え、ああ、ええねんそれは。

ソニー 逆って言ったよね？ でもそれは逆じゃないよね？ 逆っていうことは何かの逆じゃないといけないわけだけれども今のは特に逆ではなかったよね、それなのに逆って言ったよね逆じゃないのに。

神戸 めんどくさ！ お前賢くなったら逆にめんどくさ！

ソニー 逆？ 今のも逆じゃないよね？ だって神戸は前からソニーのことめんどくさそうにしてたからソニーが字を覚えた今が逆にめんどくさいということにはならないよね？ なのに逆にめんどくさいって言ったのは逆を逆に使ってるよね。

神戸 もうごめん。俺が悪かった。許して。なんなら靴でもなめましょか？

ソニー 靴はなめなくていい。なぜなら靴はなめものじゃないから。

神戸 なめもの。なんや、所々まだふわついとんねんな。安心したわ。で、どうした？
なんか用があつて来たんちゃうんか？

ソニー あゝ。

神戸 なんや、どしたん？

ソニー あゝそのゝ神戸はゝ

神戸 ん？ なに？ 言いにくいことなん？

ソニー んゝあゝ

神戸 ええよ、いらん気つかわんで。

ソニー そのゝ神戸はゝ神戸はゝなんで人を殺した？

神戸 え？

ソニー 言いたくなかった言わないでガァ言わないでいい。

神戸 いや。言いたくないわけやないんやで。ただ、なんでなんやろな。魔が差したつちゆうか、でも冷静な部分も残つとつたしな。

ソニー そうか。

神戸 ほんま、なんでなんやろ。当時の俺には人を殺す理由があつたような気もするんやけど。今となつてはそれもようわからん。

ソニー そうか。

神戸 ……して言うならやけど。

ソニー ん？

神戸 あの時の俺は、人を殺してはいけない理由の方が見い出せんかつたんやろや。

ソニー ……食つたか？

神戸 え？

ソニー 人を殺して、食つたか？

神戸 いや。せえへんよ、そんなこと。

ソニー 食わないものは殺しちゃいけないんだ。だから、人を殺してはいけないのは食わないからだ。食わないのに人を殺しちゃいけないんだ。

神戸 ……

ソニー 人間は不思議だ。食わないのに殺し合う。なんでだろ？

神戸 ……せやなあ。

ソニー ……怖いよ。

神戸 ……ソニー。

ソニー ん？

神戸 飯にしよう。腹減つた。

ソニー 少し調べてから行く。

神戸 そうか。

ソニー うん。

神戸 ソニー、さっきお前が言うとしたこと、多分当たってるで。

ソニー ん？

神戸 人と人が争う理由なんて、ホントは食い物のことだけでええんや。食い物がた
くさんあって腹が満たされてれば、戦争する理由なんてないねんホントは。腹いっ
ぱい食って、おめこして、朝が来たら起きればええねん。それくらいシンプルでえ
えはずやのに、いつから複雑になってしまったんかの。

ソニー おめこ？

神戸 (笑) 引っかかるのそこかい。今度教えたる。飯行ってくる。

神戸がいなくなる。

ソニーが神戸を見送る。

ソニーがキーボードを叩く。

ソニー ソニービーン。

ソニーが画面を食い入るように見ている。

ソニー ソニービーン ソニーの名前 ソニーの名前はおじいちゃんの名前 おじいちゃ
んはお父さんのお父さん おじいちゃんはお母さんのお父さん お父さんのお父さ
んはおじいちゃん お母さんのお父さんもおじいちゃん おじいちゃんはソニービ
ーン ソニービーンはソニーの名前 ソニーの名前はドクターがつけた ドクター
がつけた名前がソニー ソニーとドクターはお友達 お友達だつてドクターが言っ
た アルビーもソニーのお友達 ヴォルフもソニーのお友達 ハリーも安藤くんも
神戸も友達 ハリーも安藤くんも神戸も友達 ドクターはクローン 安藤君はアン
ドロギユヌス アルビーヴォルフハリーは人間 神戸も人間 ソニーも人間 人間
の友達 友達の人間 人間の友達 友達が人間 人間は食べる 殺して食べる 人
間を食べる 殺して食べる 人間は友達 友達は人間 人間は食べる 友達を食べ
る ソニービーンは人間食べた おじいちゃんは人間食べた お父さんも人間食べ
た お母さんも人間食べた ソニーは友達 友達はソニー ソニーは食べた 友達
食べた アルビー食べた 神戸も食べた ハリーもヴォルフもソニーが食べた ア
ルビー食べた 神戸も食べた ハリーもヴォルフもソニーが食べた

哀しい音楽が流れる。

ゴドーが佇んでいる。

少年 どうしたの？

ゴドー ん。

少年 続き、聞かせてよ。

ゴドー うん。

沈黙

少年 悲しいことがあったんだね。

ゴドー え？

少年 また悲しい顔をしてるから。

ゴドー そうかな。

少年 うん。

ゴドー そっか。

少年 やっぱさあ、楽しいことばかりが良いよね。

ゴドー …うん。

沈黙

少年 …ちんちん！

ゴドー …え？

少年 ちんちん！

ゴドー あの、ちよっと、何してんの？

少年 こうやってね、空気を馬鹿にしてるの。ちんちん！

ゴドー 空気を馬鹿にする？

少年 そう。空気を馬鹿にすると色んなことが楽になるんだよ。ちんちん！ ほら、やってみて。

ゴドー えっと、ちんちん！

少年 もっと！ ちんちん！

ゴドー ちんちん！

少年 おー、いいちんちんだ。ちんちん！

ゴドー ちんちん！

少年 よし次、おっばい！

ゴドー えー。

少年 やるの！ おっばい！

ゴドー おっばい！

少年 そう、おっばい！

ゴドー おっばい！

少年 あっばいっばいっばいっばいっばいタラッタラッタタ！

ゴドー おっばい！

少年 そう！ 正解！ おっばい！

ゴドー おっばい！

少年 おっばちんちん！

ゴドー おっばちんちん！

少年 ちんばい！

ゴドー ちんばい！

少年 ちちんばいばい！

ゴドー ちちんばいばい！

少年 からのおっばい！

ゴドー からのおっばい！

少年 いいよ、続けて！ だいぶ空気が馬鹿になってきたよ。辛い事も悲しいことも
どうでもよくなってきたよ。

ゴドーはおっばいを続けている。

少年 じゃあ今度は国際的に(自由)

ゴドー スウェーデンのおっばい。モンゴルのおっばい！

少年 どう？ 少しは楽になったかな？

ゴドー うん、ありがとう。

少年 おじさん。

ゴドー ん？

少年 続き、聞きたいけどさ、辛いんだったらいいよ、話さなくて。

ゴドー …いや。

少年 大丈夫なの？

ゴドー ああ。…あれは最後の夜のことだ。

いつのまにがソニー以外が揃っている。

少年はいなくなっている。

爆笑と同時に明かりがつく。手にはビールを持っている。

神戸 ほんまやて！ 絶対嘘なんかついてへんて！

ハリー 嘘だよ。

神戸 絶対嘘ちゃう！ なんで信じてくれへんねん！

ピエロ だって、神戸だもんなあ。

神戸 なんやそれ！ だったら見てこいや、直接確認してきたらええやろ。

安藤 あ、いいね、それ、行こうよ。

ピエロ よし。行ってきましたーす。

アルビーと安藤が出て行ってすぐ戻ってくる。

ピエロ ただいまー。

神戸 早いな。

ハリー タイムマシンはこういうところが便利だ。

神戸 それで、どやった？

安藤 ……かわいかったー！

神戸 せやろ！

ピエロ うん、お世辞抜きで美人さんだったよ。

神戸 ほれ！ ほれ！ 言ったとおoryんけ！

ハリー それでそれで、どうだったのよ、初体験は？

神戸 まあ、なんちゆうか、アレな、難しいのな、女子の服ってのは。男の服と違って複雑にできとるから。

安藤 あー、慣れてないから脱がしづらいなだね？ わかるわかる。

変な間

安藤 なーにー？ 女子ともしますけど何かー？

ハリー あ、いや、それで？ 童貞を捨てて一番最初に発した言葉は？

神戸 せやからこう、終わって、タバコに火をつけて、彼女を見て、『どやった？(自由)』って。

爆笑

三島 何それ！

神戸 俺嘘ついててん、童貞じゃないって。

ハリー あー、それはわかるなあ。見栄張っちゃうんだよなあ。

神戸 今から思えば、三こすり半で終わってもうてんのに『どやった』もへったくれもあらへんよな。

安藤 彼女には絶対バレてるよね、女子はそういうの気づくから。

神戸 セやるなあ。あー恥ず。はい、次、ハリー。

ハリー 俺？

神戸 そうやで、こうなったら順番や。

ピエロ 初体験話し！

安藤 ほら、まずは、どんな子だったの？

ハリー あー、かわいいこだったよ、初めてつきあった彼女で、なんだろな、芸能人言うのと、松嶺レオンみたいな。

神戸 まつみねおん？

ハリー あれだよ、ジューダス・ジューダスのメインボーカルだった。

神戸 あのハリー、お前の時代の芸能人で例えるのやめてくれへん？ わかるわけないやろ、みんなてんでバラバラの時代から来とるんやし。

ハリー あー、そっか。あー あれ！ あれ！ あの人に似てる！ なんだっけ？ 古い映画の、オードリー・ヘップバーン！

ピエロ あー、それならわかる！ 歴史上の人物だもんね。

神戸 オードリー・ヘップバーン？ マジでか？ むっちゃかわいいやんか。

ハリー そっくりだったと思うよ。

神戸 ちょ、観に行こ！

神戸、安藤、アルビーが出て行ってすぐ戻ってくる。

ハリー どうだった？

沈黙

ハリー かわいかったろ？

安藤 …かわいかったよ、目が二つあって。

ピエロ 鼻も一つあってね。

ハリー だろ？

神戸 …どこがオードリー・ヘップバーンやねん。あんなもんだのブバーンやブバーン。ハリー 貴様、俺の初恋の相手を！ (銃を抜く)

神戸 おう殺してみいや！ どうせ明日には消え去る命や！

安藤 ちよつとやめなよ。神戸君も挑発しない。ブス専…じゃなくてハリーも銃をしま

って。はい、じゃあ次はアルビーの番ね。

ピエロ あーやっぱ順番まわってくるんだね。

安藤 当然。

ピエロ でも、僕は一人しか経験ないからなあ。

ハリー ほう。

神戸 なんやなんや、いい話聞けそうやな。

安藤 相手はどんな人だったの？

ピエロ えー、そうだなあ。見た目は美人というより可愛い系でえ。

他 うん。

ピエロ 髪の毛はこれくらいのボブでえ。

他 うん。

ピエロ 背は僕より少し低いくらいでえ。

他 うん。

ピエロ 肌は僕よりも白くてえ。

他 …うん。

ピエロ …目だなあ。目がとても綺麗な子だった。

神戸 よし。

ハリー ジャッジ。

神戸とハリーが出て行ってすぐ帰ってくる。

ピエロ どうだった？

神戸 かわいかったー！

ハリー うん、アルビーの言うとおり、目が綺麗な女の子だったね。

ピエロ でしょ？

ハリー それで？

神戸 初めての時はどんなやってん。

ピエロ え？ だから、その、まあ、終わって、こう、タバコに火をつけて

神戸 そこまでは俺と一緒やな。

ピエロ 彼女の方を見て：『クーポンあるから割引なんだよねえ』って。

コケ。

神戸 あの子プロかい！

ピエロ ええ！ そうだよ。そういう話じゃないの？

神戸 そういう話やけど、そういう話やないねん。

三島 アルビー、時間学という学問で言うと、アルビーみたいな奴の事を素人童貞って言うんだ。

ピエロ 素人！ 童貞！（わなわなからのぼこぼこ）

神戸 （笑）ええねん、もうポコポコはええねん。

みんな笑っている。

ソニーが通る。

神戸 おお、ソニー、お前も飲まへん？

ソニー あー、ソニーはいい。

神戸 ええの？ 最後のビールやで？

ソニー うん、ソニーいい、大丈夫。

神戸 そうか。

ソニー うん。

神戸 どこ行くん？

ソニー 明日の準備、最後の偵察。

神戸 そうか。

ハリー ソニー。もう一人でも大丈夫だと思うけど、気をつけてな。

神戸 うん、気をつける。

ピエロ ソニー、右手はどっち？

神戸 こっち。

ピエロ あってる。

三島 ソニーが帰ってきたら飯にするからな。そのつもりで。

神戸 うん。わかった。ソニーが帰ってきたらガー飯。それじゃ、行ってくる。

それぞれが「いってらっしゃい」の反応。

ソニーは行きかけて振り返る。ニッコリと笑い、行く。

ハリー そうそう。安藤くんの場合はどうなの？

安藤 えー僕の場合？

ピエロ そうだねえ。童貞でもあったわけだし、処女でもあったわけだし。

安藤 えー、レディにそんな話し聞く、普通。へーん。もてないよ。

神戸 じゃあそっちはええから童貞捨てた時の話し聞かせてや。

安藤 えー、いいよ、あれはねえ…

金属音のような音が通りすぎる。

三島 ん？

神戸 あ、デジャブ。

ハリー あれ、俺も。

ピエロ 僕もだ。

安藤 なんだろ、僕もだ。

沈黙。

三島 腹が減ったな。

安藤 全員揃ってからって言ってましたよね。

三島 ああ。…ん？ 全員揃ってるじゃないか。

ハリー あ、ホントだ。

ピエロ うん、みんないるね。

神戸 ああ。

沈黙

全員が『ん？』『え？』と、何か腑に落ちてない反応。

ヴォルフが言葉にならない言葉を泣き叫ぶ。

ハリー おい、どうした、ヴォルフ！

震えたまま一人の世界に入るヴォルフ。

ハリー ヴォルフ！ ヴォルフ！

神戸 なんやこれ？ どないなっぺん。

静寂

ゴドー ……ソニーが、消えた。

全員が驚いてゴドーの方を見る。

ピエロ 君、誰？

ゴドー ……

三島 ……彼のことが、見えているのか？

全員頷く。

三島 ……私から話そう。

何かをロストしたような哀しげな曲を奏でるヴォルフ。

光が落ちる。

時間が少し経過している。

神戸がソニーの椅子を蹴倒す。

神戸 信じられるかボケ！

三島 ……だが、事実だ。彼はこうして我々の目の前にいる。

神戸 じゃあ何か！ そのソニーっちゅう奴は俺たちとずっと一緒におったっちゅうんか！

ゴドー そうだ。

神戸 じゃあなんで思い出せへんねん！ 一緒におったっちゅう証拠を見せえ！

三島 それは無理だ。歴史は既に改ざんされてしまったんだ。その、ソニービーンという男は歴史上に存在しないんだ。それぐらいお前にもわかるだろ？

神戸 わからへん！ 納得できへん！ こいつが嘘をついとる可能性だってあるやろ！

三島 彼が我々に嘘をつく理由はない。

神戸 おいお前、万能なんやろ？ 証拠を出せや！ ソニーって奴がここにいた証拠を出せや！

ゴドー 証拠は、無い。

神戸 ふざけんなボケえ！

ゴドー 彼はもう存在してない存在なんだ。だから証拠はない。でも、彼のことなら覚えてる。彼は生まれながらにして不幸で、言葉も文字もほとんど知らなくて…でも君たちが彼に言葉を教えて、そして君が彼に文字を教えた。

神戸 俺が？

ゴドー ああ。そして、彼は…感情まではわからない、私にわかるのは事実だけが…彼祖父と祖母を殺し、自らの存在を歴史から消し去った。

神戸 …。

ゴドー 最期、彼は笑っていたよ。

神戸 (ゴドーに掴みかかり殴り倒し) かえせや！ かえせや！ ソニーをかえせや！
出せや！ 誰やねんソニーって！ なんやねんお前！ お前万能ちゃうんか！
なんでもできるんちゃうんか！ お前の力で、今すぐ元に戻せや！

ゴドー …私は、万能なんかじゃない。それは人間が勝手にそう思い込んだだけだ。私に出来るのは人間と共にあることだけなんだ。見守り続けることだけなんだ。

沈黙

ピエロ …なんだろうね？ なんだろうね、この感じ。ここがさ、凄い、凄い痛いんだけど、なんで痛いのかもわからない。

三島 …ソニーによる歴史改ざんの影響は？

ゴドー ソニービーンに殺されるはずだった人間が生き残ったが…それによって受けた影響は軽微。許容範囲内だ。

三島 そうですか。

ピエロ …さてと。

三島 行くのか？

ピエロ うん。

三島 アルビー、君の選んだ選択は？

ピエロ これ(マスク)を被って色んな時代に行ってみようかと思ってる。異星人のふりしてさ、人類共通の敵になってみる。そしたらさ、ひょっとしたら人類は一つになるかもしれない。

三島 なるほど。

ピエロ ヒントは神戸からもらったんだけどね(笑)。まずは20世紀に行ってみる。

三島 そうか。

ハリー 20世紀か。アルビー、だったら俺も行くよ。途中までは一緒だ。

ピエロ あ、ほんとに？

三島 ハリー、君は？

ハリー ちよつと、助けてやりたい奴がいるんだ。

三島 そうか。

ピエロ じゃあ、行きますか？

ハリー ああ。

ピエロ それじゃ、みんな、縁があったら、またね。

ハリー あ、アルビー、あれやりたい。

ピエロ あ、やる？

ハリー おう。
ピエロ よし。

ポコポコでいなくなる二人。

ヴォルフが行こうとする。

三島 ヴォルフ、君はどこへ？

ヴォルフがイエスタデイを弾く。

三島 過去にさかのぼって？

ヴォルフがスモールワールドを弾く。

三島 身寄りの無い子供たちを集める。

ヴォルフ上を向いて歩こうを弾く。

三島 そして一緒に未来に？

ヴォルフが頷く。

三島 未来には何もないんだよ。

ヴォルフが笑顔でギターを奏でながら去る。

三島 神戸、君はどうする？

神戸 ドクターはどうするんですか？

三島 私は、安藤くんを連れて、人類が生まれる前に行こうと思う。

神戸 ……そうですか。

三島 ああ。

神戸 ……ドクター。

三島 ん？

神戸 俺も連れてってもらっていいですか？

三島 ああ、かまわんよ。

安藤 やった。またしばらく一緒だね。

三島 先に行って待ってる。

神戸 はい。

三島がゴドーに一礼する。

三島と安藤、去る。

神戸 …なあ、あんた。

ゴドー ?

神戸 殴ってすまんかったな。

ゴドー …。

神戸 俺な、あんたのことなんか信じてへんけどさ、ずっと見守っててくれてはったんよな。

ゴドー …。

神戸 ありがとうな。何百回も滅んでく人間を、ずっと見守っててくれてて。

ゴドー …。

神戸 あんたは、これからどうなるん？

ゴドー 幾つかの歴史改ざんが同時に重なって行われると、時間の流れに歪みが生じ、人間がビックバンと呼んでいる現象が起きる。運が良ければ改ざん後の適当な時代に飛ばされる。運が悪ければ宇宙の誕生から始めなければならぬ。

神戸 そうか。

ゴドー ああ。

神戸 七百年どころの騒ぎやなかったの。すまん。

ゴドー …。

神戸 辛くはないんか？

ゴドー 時々は。

神戸 そうか。

ゴドー だが、辛くなった頃に人類が現れて、寂しくはなくなる。

神戸 …。

ゴドー でも、そのうちまた人類は滅びの道を選び、そうなるもまた辛くなる。

神戸 そうか。

ゴドー ああ。

神戸 すまんの。

ゴドー いや。

神戸 懲りずに、見てくれよな。

ゴドー ああ。

神戸 ほな、行くわ。

ゴドー ああ。

神戸が行きかける。

倒れてる椅子を元に戻す。

神戸 (椅子に向かって) 見とけよ、概念から変えてやんねやからよ。

神戸がいなくなる。

ゴドーが一人、俯いている。

少年がやってくる。

少年 …それから？ それからどうなったの？

ゴドー わからない。

少年 え？

ゴドー 彼らとの物語はこれでおしまいなんだ。

少年 …ふーん。

ゴドー ああ。

少年 成功したのかな、歴史改ざん。

ゴドー どうだろうな。きっと、今度もまた…

少年 そっか。

ゴドーが俯く。

少年 ？

ゴドー …なんだろう…なんなんだろう…なんで人間はこうなんだろうね。もう何度目だと思ってるんだよ。

少年 …ずっと見守ってきたんだもんねえ。

ゴドー …初めはね、気にもとめなかった。勝手に生まれて勝手に滅びていくのをただ眺めてた。それがね、あれは宇宙が何回終わった頃だったかな、そのうちね、なんとなく気になり始めて、そしたらね、人間も俺の存在を意識し始めて。でもね、しばらくすると人間は必ず争い始めるんだ。時には俺を理由に戦争を始めたりする。そ

してね、その度に滅んで、人間同士で滅ぼしあって。その繰り返し。もう見てらんなくてね。手を差し伸べてみたり。時には一緒になって考えてみたりもしたけど、結局また戦争を始めて滅んでいく。馬鹿で、マヌケで、もう細胞の一つ一つが全部馬鹿で。

少年 よく見捨てなかったね。僕だったら無理かも。孤独にも耐えられそうもないし。

ゴドー …。良いこともあったからね。時々、すごい素敵なものを見せてくれた。関係っていうのかな。

少年 関係？

ゴドー ああ。それはね、宇宙が始まった時からただ一人、最初からそこにいた俺にはなかったものだったんだ。

少年 そうか、関係か。

ゴドー まあ、人間は時々その関係すらも間違えちゃって、結局滅んじゃうんだけどね。

少年 センソーとか、そういうこと？

ゴドー うん。

少年 そっか。

ゴドー うん。…俺、そろそろ行くね。

少年 どこに行くの？

ゴドー 何処というか、此処というか、とりあえず、この歴史のことを知らないよ。

少年 そっか。今度で何回目なの？

ゴドー この宇宙になってからは七百二十二回目。

少年 想像もつかないや。よく諦めずに続けられるね。

ゴドー それも、人間に教わったことの一つかな。

少年 そうなんだ。

ゴドー ああ。あ、ありがとね、なんだか色々。おかげで、なんか楽になれたよ。

少年 どういたしまして。またこれやろうね。

ゴドー ああ、あの心の痛いスポーツ？ そうだね。…それじゃ。

少年 あ、そうだ。一つだけ聞いたことがあるんだけど、聞いてもいい？

ゴドー なに？

少年 センソーってなに？

ゴドー …え？

少年 おじさんの話し面白いんだけどさ、聞いててそこだけ理解できなかつたんだよね。あ、あとヒトラーって人の話し？ おんなじ名前の有名な画家さんはいるけどさ、センソーするヒトラーさんとか言われるともう何がなんだか…

ゴドー ないのか？

少年 え？

ゴドー ないのか？ 戦争。

少年 うん、だからそれを教えて欲しいなあって言ってるんだけど…

ゴドーが地の底から響くような奇妙な笑い声を出す。

少年 おじさん。

ゴドーが爆笑している。

ゴドー 誰だよ！ 誰だよいったい！ やりやがった！ やりやがったよ人間風情が！

少年 おじさん？

ゴドー バーカ！ バーカ！ ザマーミロ！ ザマーミロバカヤロー！ やったよ！ や

ったんだよ！ 俺たちやったんだよ！ ガー！ ガー！

ゴドーがポコポコする。

ゴドーが大はしゃぎしている。

はしゃぎ疲れてへたりこむゴドー。

ゴドー …やった…やったんだ…ようやく…

少年 泣いてんの？

ゴドー ああ。

少年 嬉しいことがあったんだね。

ゴドー ああ。ああ。

少年 ふふーん、なんだか嬉しいね。嬉しい人を見るとこっちまで嬉しくなる。

ゴドー そう。

少年 …あ、そうだ、おじさん、お願いがあるんだけどさ。

ゴドー ん？

少年 友達になろうよ。

ゴドー え？ 俺と？

少年 うん。だからさ、ね、名前教えてよ。

ゴドー 名前？

少年 うん。

ゴドー あんまり呼ばれることないからな。

少年 いいじゃん、教えてよ。ね、お願い。

少年が手を差し伸べる。

ゴドーはその手を見つめ握り返す。

ゴドー　ゴドー。ゴドーだ。

幕